

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	職員が各々考え、管理者がまとめて、分かりやすい独自の理念をつくりあげている。		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	ユニット会議やカンファレンスを開く中で、意見交換をし日々取り組んでいる。また新しい職員には、オリエンテーションを実施し、理念や運営基準等を指導している。		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	ご家族や面会者、地域の方が来訪した時にわかる様に掲示している。見学時や入居時にご家族に説明をしたり、運営推進会議においても、地域の方へ理解して頂ける様、説明をしている。	○	広報誌を月に一度作成し、その中で利用者が地域の中で暮らしている様子を掲載しているので、今後も行っていきたい。
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	玄関前、駐車場、ゴミステーションにて、挨拶や言葉を交わしてはいるものの、気軽に立ち寄っていただける事はない。散歩の時には、近くの保育園周辺で子供達と交流が出来ている。	○	町内の行事に積極的に参加をして、身近に感じてもらえる様働きかけていきたい。また玄関前にベンチを設置しているので、活用していきたい。
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	幼稚園との交流、運動会見学、慰問等、町内花壇苗植え、町内運動会への参加等にて交流することに努めている。また、週に一度ボランティアさんに来て頂いている。	○	町内の老人会にも参加していきたい。
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	運営推進会議において地域の高齢者の話は出るものの、その方たちの役に立つ取り組みは出来ていない。	○	地域の高齢者の方に対して、目を向ける機会がなかったが、今後は取り組みできることを、話し合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価については全職員で作成し、外部評価を実施する意義を理解している。</p>	○	サービスの質の向上が出来る様、改善に取り組んでいきたい。
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>第6回まで実施している。会議では日々の活動内容を報告し、参加者の意見を活用する様、心掛けています。</p>	○	町内の方が、ホームにボランティアに来て頂けるという言葉が頂戴しているので、交流を図っていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>札幌市が主催する会議や研修には、積極的に参加している。</p>	○	今後も研修等に参加し、サービスの向上に努めたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>各種研修に参加はしているが、学ぶ機会が少なく知識の浅い職員が多い。また該当する利用者がいないため活用もしていない。</p>	○	積極的に研修や勉強会に参加し、ユニット会議等で勉強する機会を設けたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>ホーム内での会議の際、個別で話し合い、又随時カンファレンス等を実施している。また他事業所の虐待などのニュースがあれば、皆で話し合いをしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>十分な説明と話し合いを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>その状況に応じて、管理者、職員が話を聞く時間を作っている。また苦情受付意見箱を玄関に設置してある。</p>	○	<p>内容によっては、直ぐに対応出来ず待たせてしまう場面もあるが、できる限り早期解決に努め、解消できるよう努めていきたい。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>ご家族来訪時、又状態変化の際は、連絡を入れ状況報告を行っている。又、毎月の通信にても報告している。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情相談窓口を設け、玄関には意見箱を設置している。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員の要望、意見を聞くように心掛け、よい方向へ取り組める様努めている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>夜間の対応、緊急時等に対応出来る体制になっている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>同法人他事業所があるため、職員の異動はあるものの、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。また古くからいる職員は、利用者の気持ちを考え対応し、馴染みの関係を築ける様、職員間で協力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修等、個々にあわせて出席しているが、計画的ではなく、職員の育成にまでは至っていない。</p>	○	<p>計画的な取り組みをしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>区内に連絡会があり、研修や交流の場を持つ様に努めている。また同業者と電話等で情報交換している。</p>	○	<p>他のグループホームの見学、交流などをすすめたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>年に一度、観楓会がある。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>研修、講演会への参加を促し、職員の希望を聞いている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人が困っている、不安等があった際は話し合い、不安の軽減に努めている。</p>	○	<p>ご本人からの聞き取りが困難な場合は、ご家族から情報を収集し、信頼関係を築くよう努めている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族とも何度も話し合いをする等して、信頼関係に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	じっくりと話しを聞いて、その方に必要なサービスを提供している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にご本人、ご家族と面談し、サービスの内容を事前に検討し、徐々に馴染める様努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一人ひとりの生活リズム、性格等を考慮しながら一緒に出来ること(例えば調理や片付け等)を、共に楽しみながら行っている。また大工仕事を先頭になってやってくださる方もいる。	○	継続していきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	状況の報告を行い、ご家族からの話をしっかり聞くよう努めている。またご家族の中には頻りに面会に来て下さる方や、外出等をして下さる方もいる。	○	ご家族、職員ともに同じ方向性で支援していけるよう、話し合いを続けていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時には日々の状況を伝え、ゆっくりと話しができるよう配慮している。	○	ご本人とご家族の気持ちが通じ合えるような、支援をしていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	来訪を積極的に歓迎はしているが、馴染みの場所への外出は出来ていない。	○	利用者の希望や思いを探り、ご家族と連携して馴染みの場所へ行けるよう努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士で会話をしたり、一緒に活動(手伝いや余暇活動)を楽しめることがあるが、一方で不満の方がいる場面もあるため職員が間に入って、声かけや見守りを行い支え合う様努めている。また職員はその情報を共有し対応している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された後でも連絡を下さるご家族がいる。また、いつでも相談等に応じることが出来る様、体制をつくっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を取り入れ、利用者の行動、生活の向上等を把握している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族から話を聞き、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活記録や申し送りで、各職員の情報を報告、共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンスを行い、介護計画を立てている。またご本人、ご家族の意見を反映できる様努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しは、目標期間終了に合わせて行っている。又、状態、症状が変化した際は、情報収集し職員と共有し新たな計画を立てている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子等は、個別記録に記入し、職員はその情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	行事、運営推進会議等、関係者等参加出来るように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	週1回ボランティアを受け入れ、お話し、カルタ、トランプ、カラオケ等の活動をして下さっている。また消防訓練を実施している。	○	交番で挨拶に行っているが、充分な協力関係が出来ていないので、検討していきたい。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	運営推進会議で情報交換をしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に1度、運営推進会議の場で、地域包括センター職員からの話を聴いたり、質問を受けたりと情報共有をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>内科往診医、又はかかりつけ医師、訪問介護ステーションの看護師と24時間体制で協力体制をつくり対応している。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>個々に合わせて、精神科を受診している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>訪問看護ステーションの看護師が週1回訪問して、健康管理、往診医への情報提供を行っている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>内科往診医の協力病院の医療相談員や、医師からの情報を的確にご家族様に伝えるようにしている。また病院の担当者との密な情報交換に努めている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>症状悪化の際、最終的な判断は、ご本人及びご家族様の意見を聞いている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>グループホームでの「できること、できないこと」を、往診医や主治医と話し合いの上取り組んでいる。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>馴染みの家具を配置したり、環境の変化を最小限にする様努めている。他の施設等へ移り住む際も、関係者間で話し合いダメージを防ぐよう努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人情報の取扱いの徹底を行っている。プライバシーを損ねるような事が無い様に努めている。また、一人ひとりに合った言葉かけ(意欲を損ねない様にする、意欲が出る様に声をかける等)をしている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者に説明を行って、希望の支援をして行ける様にしているが、納得されてない時もある。</p>	○	<p>ご本人に納得して生活して頂ける様、ご本人の言葉には傾聴し、説明の仕方等も工夫していきたい。また利用者様の訴えたいことがわからず、支援の方向性に困ることがあるが、できるだけ思いを汲み取れるよう、職員同士で協力していきたい。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースで暮らして頂く様、支援に努めているが、状況によっては、職員側の都合になってしまう場合もある。</p>	○	<p>掃除、入浴、食事等、一人ひとりのペースを大切に、希望にそった暮らしを支援していきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>整容については毎日声かけ介助を行っている。理、美容は月1回訪問に来て頂き本人の希望を聞いてカット等をしている。</p>	○	<p>利用者の状況によって整髪、理、美容ができないこともあるが、介助で洗面を行ったりと、清潔に保てるよう努めている。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>自らお手伝いをして下さったり、声かけによって手伝って下さってくれる方がいる。その日の体調を見ながら盛り付けや調理、片付け等、無理のない範囲で手伝って頂いている。</p>	○	<p>月に一度、希望を取り入れた献立にしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご家族来訪時に持参された飲料物については、制限はしていないが職員間で把握するようにしている。また、ご本人が飲食物を買って来て欲しいと言われた際は、買い物へ行っている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりのパターンを把握し、不快にならない様声掛け誘導を行っている。状況によってはセンター方式のシートを活用し、排泄パターンを把握して、時間や本人の仕草を観察し、声かけ・誘導を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員の都合上限定されてしまうが、お風呂の好きな方、早急に入浴の必要な場合は、入浴出来る体制づくりはしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者のパターンに応じて、消灯や声かけをしている。お昼寝の声かけもしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その日の体調等を見ながら、自室の掃除、チラシでのゴミ箱作り等をして頂いている。他にも花札、マーじゃん、ホワイトボードにメニュー書き等を行っている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理はホーム側で行っているが、一部の利用者はご本人が所持されている。きちんと管理され考えながら使われている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬期間は路面上危険な為、戸外に出かけるのは難しいが、その他はなるべく散歩に出かける等している。また近くのスーパーへ買い物に行ったりもする。	○	冬期間は、タクシー等を利用し外出できるよう検討している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の協力を得て買い物、外泊、外出等を支援している。また、希望があれば職員同行で、買い物に出かけている。	○	利用者、職員の状況を見て外出、外泊の機会を増やしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら電話をしたり、手紙のやり取りをしている方がいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時には、近況報告をさせて頂き、居心地よく話しやすい環境づくりをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ユニット会議にて、介護支援専門員より「身体拘束ゼロの手引き」をベースにした指導があり、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	弊害を理解しており、鍵をかけない様に取り組んではいるが、利用者の状態によっては、危険回避の為一時的に施錠を行う場合もある。また夜間は防犯上、施錠をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>居室に入る際には、ノックや声かけをしたり、廊下を通る時はさりげなく様子を見るようにしている。又、職員間での声かけ、連携を図り安全に努めている。夜間は定時の巡回時やその都度様子を把握している。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物の保管は基本的にホーム側で行っているが、個人の私物で管理可能な方には、居室で保管していただいている。薬は施錠された薬品棚にて保管しているが、一部は収納スペースに保管し、危険がないよう常に見守りを行っている。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ひやりハット、ケアカンファレンスを行い、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。また事故が起こり得ることを、常に意識するよう心掛けている。</p>	○	<p>継続して防災訓練、事故防止のため職員の勉強会を、開催していきたい。</p>
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急時の連絡体制を掲示し、職員全員把握しているが、定期的な訓練は行っていない。</p>	○	<p>今後は定期的な訓練(模擬訓練)を行っていきたい。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>定期的な避難訓練を実施し、避難経路や消火器の場所を把握しているが、地域の人々の協力が得られる状況にまで至っていない。</p>	○	<p>運営推進会議や、町内行事への参加を通じて、地域の人々と合同で訓練が出来るよう働き掛けていきたい。</p>
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>身体・精神的に変化のあった場合など医療機関と連携を図り指示を仰いでいる。また、ご家族にも事故防止対策として、何かあれば常に連絡を取り合って対応策を話し合っている。</p>	○	<p>年々入居者も高齢となり、今後ターミナルケアについても職員、医療関係者、ご家族との話し合いを持ちたい。</p>
<p>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	特変時は管理者・往診医に報告し、指示を仰ぐようになっている。職員も情報を共有し、対応できるよう体制を整えている。(緊急時の連絡網やマニュアルがある)		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々のファイルに薬の内容を記載している。随時確認はしているが、全職員が全ての薬を、理解するまでには至っていない。薬の変更時は、申し送りやノートに記載し情報を伝達・共有している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分と排便のチェックを行い、医師の指示のもと下剤や座薬で調整している。毎朝牛乳は提供しているが、運動や食物の工夫は不十分である。	○	ラジオ体操や、トイレへの声かけ等行っているが、更に工夫をしていきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを心掛けているが、利用者の状況によっては不十分な場合もある。	○	歯科の往診を活用し、定期的な清掃を行っていきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	往診医と各利用者の健康状態について相談しながら、栄養・水分摂取の支援をしている。摂取量が少ない場合は、好みのものを提供する等工夫している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手拭きは使い捨てのペーパータオルに替え、汚物等で汚れた時は必ず除菌している。感染症マニュアルも作成し、うがい・手洗いは積極的に行っている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	ふきん・まな板は使用后、及び夜間帯で漂白している。冷蔵庫内は週に1度清掃をしている。盛り付けの際、使い捨て手袋を使用している。食材の在庫を点検し、食材の残りは破棄している。食事の作り置きはしていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>自室の場所が分かる様に、名前が入った表札を掛けている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>花壇に花を植え、草むしり・水やりを一緒に行っている。また、ベンチを設置し天気の良い日は涼んだり、夏にはホームの前で、焼き肉や花火を行っている。</p>	○	<p>ベランダはあるものの、マンション1階部分を改修してつくったため、活用が難しい状況である。今後は、そのベランダを有効利用出来るよう、検討していきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない  ②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない  ②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  ②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない  ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 日々利用者の状態が変化し、業務が多忙になる中でも、全ての職員が明るく密に話し合い、連携を図っています。  
 利用者とは、家庭的な親しみのある関係作り、交流が保たれると思います。